

県内の情報連絡員報告 令和7年9月

石川県中小企業団体中央会

総括

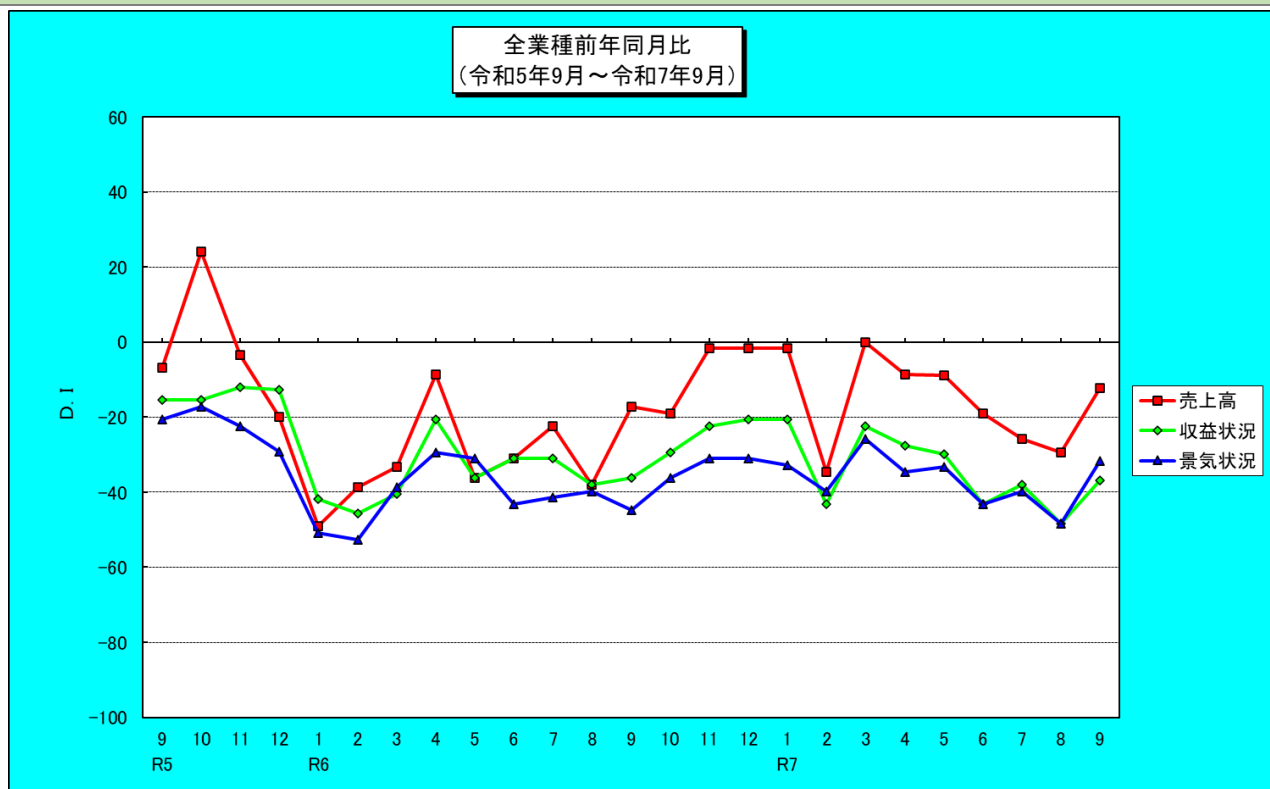
D I 値で見ると、昨年同月比をもとに前月との増減を比べた場合、9項目中、7項目が上昇、2項目が悪化となった。**全業種**において、外需が堅調な業種もみられるが、国内需要は依然として停滞傾向で、全体として明確な回復基調には至っていない。**製造業**では、9項目中、7項目が上昇、2項目が悪化となった。原材料高や人件費上昇に伴うコスト負担の増大の影響は大きい。価格転嫁は難航し、賃上げ対応が経営を圧迫、収益面は厳しい。**悪化していた業種**は、和装の需要が減少しており、売上も減少している**織物業**や、需要が減少し、厳しい状況が続いている**印刷業**、建機業界の減産で売上が低下し、また最低賃金引き上げで収益悪化につながる**鉄素形材製造業**などが挙げられる。一方、好調であった業種は、売上が昨年より増加し、好調に推移した**調味材料製造業**であった。**非製造業**では、8項目中、6項目が上昇、2項目が悪化となった。物価高と最低賃金の上昇が経営を圧迫しており、収益面では依然として厳しい環境にある。**悪化していた業種**には、販売量が減少するとともに人件費や物流コスト増加で収益減少が続いている**石油小売業**、インバウンド客は少し戻ってきたが、物価高が続く、国内客は厳しい**旅館・ホテル**などがある。一方、**好調であった業種**は、気候が安定し、アパレルを中心に売上が増加し、来街者も増えている**商店街**、上向き傾向が続いている**各種商品卸売業**などであった。

前月比のDI 値

項 目	全体 D I	製造業 D I	非製造業 D I
売上高	-12.3 (17.0)	-12.9 (38.7)	-11.5 (▼ 7.8)
在庫数量	2.1 (12.7)	-6.5 (9.6)	18.8 (18.8)
販売価格	33.3 (▼ 1.2)	29.0 (▼ 3.3)	38.5 (1.5)
取引条件	-7.0 (6.8)	-6.5 (6.4)	-7.7 (7.1)
収益状況	-36.8 (11.5)	-48.4 (12.9)	-16.7 (16.6)
資金繰り	-15.8 (11.8)	-16.1 (22.6)	-15.4 (▼ 0.6)
設備操業度	-29.0 (19.4)	-29.0 (19.4)	—
雇用人員	-19.3 (▼ 5.5)	-25.8 (▼ 12.9)	-11.5 (3.3)
業界の景況	-31.6 (16.7)	-51.6 (6.5)	-7.7 (29.3)

※1 : () 内の数字は前月とのポイント差 (▼は減少) ※2 : 設備操業度は製造業のみ

全業種の前年同月比推移



<製造業>

集計上の 分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
食料品	調味材料製造業	9月の売上高は前年同月比で約2割増と好調に推移した。一方、個人消費向け品種の出荷は依然として低調で、前年同月比ではわずかに減少した。
	パン・菓子製造業	9月期はまだまだ猛暑が続き、観光客が戻り切っていないため、売上げは横ばい状態にある。10月には関西・大阪万博が閉幕し、秋の修学旅行シーズが始まるため、売上げ拡大に期待している。
繊維工業	織物業	先月に引き続き、インテリア・カーテン関連は仕事量・受注数ともに好調である。高級ゾーンについても織機の稼働状況から判断すると概ね順調である。一方、定番商品の厳しい状況に変化はみられない。絹織物（和装）に関しては在庫超過により、当分は減産の方向で厳しい状況が続く。
	織物業	対前年同月比の生産高は、絹織物が16%増加、合繊が4%減少し、全体で4%減少した。
	織物業	織物生産高は前年比で減少となった。品種別ではナイロンが対前年比21.4ポイントの増加、ポリエステルが22.0ポイントの減少となり、織物全体では9.9ポイントの減少となっている。
	その他の織物業 （染色加工）	昨年同期と比較すると売上が35%の減少がみられた。和装の販売不振における高級呉服の更なる需要減少が原因と思われる。
	ねん糸等製造業	売上高は依然として低水準だが、一部で微増している企業もある。収益状況は悪いままである。
木材・木製品	製材業、木製品製造業 （加賀方面）	9月の売上高は前年同月比で約20%増加した。プレカット工場全体の稼働率は月を追うごとにやや増加傾向にあるとみられる。一方で、地元工務店からの受注は減少しており、今後の見通しは依然として厳しい。
	製材業、木製品製造業 （能登方面）	9月の取扱量は979.7㎡、売上高は14,776,038円で平均単価は15,081円であった。今月に入って入荷が減少した。伐採作業員が災害現場に動員されており、これからの需要期を迎えるにあたり懸念している。
	製材業、木製品製造業 （金沢方面）	9月は例年落ち着く時期であるが、大型物件があったことからプレカット稼働率は比較的好調で、売上高は前月を上回った。もっとも、前年同月比ではやや減少している。木材価格はほぼ変わらないが、流通には多少荷余り感がある。
印刷	印刷業	印刷需要は全体的に低迷が続き、回復の兆しはみられない。包装・パッケージなど一部分野では大きな落ち込みはなく比較的安定しているが、業界全体としては依然として厳しい状況である。特に印刷用紙の需要減少が顕著で、今後も縮小傾向が続くおそれがある。
窯業・土石製品	砕石製造業	対前年同月比で9月の組合取扱出荷量は、生コン向け出荷が8.1%減少、合材用（アスファルト）向け出荷が67.3%増加、全出荷量では4.4%減少となった。上半期が経過した時点では、生コン向け出荷が7.8%減少、合材用アスファルトが57.9%増加で、全体では2.4%の増加である。依然としてダンプ不足は解消していない。

	陶磁器・同関連製品製造業	売上高は上昇。各需要が著しく伸びている。
	生コンクリート製造業	令和7年9月の県内生コン出荷量は前年同月比108.3%となった。各地区の状況について、前年同月比でプラスとなったのは、金沢地区106%、羽咋鹿島地区132.1%、七尾地区114.3%、能登地区163%であった。プラス要因として、金沢地区は工場新設に関する出荷の増加、羽咋鹿島・七尾・能登の3地区は能登半島地震復興およびのと里山海道4車線化工事関連の出荷が寄与した。前年同月比でマイナスとなったのは南加賀地区86.3%、鶴来白峰地区70.3%である。官公需・民需別では、官公需92.5%、民需113.2%である。
	碎石製造業	9月の組合売上分は公共工事関係で12,500千円あり、安定している。
鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	先月と大きな変化はなかった。
	非鉄金属・同合金圧延業	円安の影響で外国人観光客が多く、金箔貼り体験は人気があるが、お土産品の売上にはつながっていない。また、原材料の金地金価格がこれまでにない高騰（20,324円/g）を続けており、金箔需要は極端に減少し、業界は厳しい状況が続いている。
	鉄素形材製造業	9月の生産量は対前月比で29.2%増加、対前年同月比で1.3%増加であった。景況に大きな変化はなく、横ばいの状況である。
	鉄素形材製造業	建機業界の減産に伴う売上減少の中で、最低賃金上げがさらなる収益悪化につながるとみられる。今後は物価および金利上昇の懸念が強まり、設備投資の判断に苦慮している。
	一般機械器具製造業	大手建設機械メーカーでは需要減少が続き、今年度に入っても減産が継続している。機械部品加工を手掛ける組合員企業もその影響を受け、受注減少により定時操業となっており、景況は悪化傾向にある。今後は、米国の相互関税による輸出コスト上昇や世界経済の不安定化に伴う受注動向を注視する必要がある。原材料・エネルギー価格の高止まりに加え、金利上昇や賃上げにより経営への影響が一層懸念される。
	一般産業用機械・装置製造業	売上は減少傾向にあり、原材料等の高騰も影響し収益状況は厳しい。地域経済全般的に見ても、原材料や電力価格の上昇、トランプ関税の影響もあり、依然として先行きは不透明である。
一般機器	機械、機械器具の製造又は加工修理	全体的に収益状況は悪化傾向にある。これまで堅調だった建設機械関連の受注が大幅に減少している。中国市場では、中国政府が建設機械用精密部品製造に政策的支援を行っており、日本の優位性が揺らいでいる。半導体関連も低迷しており、今後の見通しは不透明である。
	機械金属、機械器具の製造	順調に推移しており、残業の続いている事業所もいる。
	繊維機械製造業	繊維機械関連の売上高は、これまでの受注残の余裕により現状では維持しているものの、新規受注は減少傾向にある。市場自体は比較的堅調に推移しているが、競合が激化しており、特に高付加価値のスパン関連分野では厳しい状況が続く。一方、工作機械・産業機械分野では、米国の関税政策の影響で北米への生産シフトが進み、従来のサプライチェーン維持に不安が生じている。また、自動車関連分野では需要回復の兆しが見えない。為替面では米ドル・ユーロともに円安が進行し輸出企業には追い風となるが、原材料などのコスト上昇で効果が相殺され、期待した成果にはつながっていない。

	機械金属、機械器具の製造	受注状況が徐々に悪化している企業が目立つ。下期はその傾向が強まっている。米国の高関税政策や中国経済の減速・安値攻勢など、国際経済情勢の変化による影響がみられる。北米や中国、ポストチャイナとしてのインド市場に期待している。
	機械器具及びその他金属製品の製造	対前月比ではすべて横ばいとなっている。しかし、今後の景気の動向には注視する必要がある。人件費の上昇も影響もあり、人手不足も続いている。
	機械金属、機械器具の製造	建設機械大手メーカーは、売上高・営業利益ともに前期比で減収減益の見通しであり、組合の業況も需要拡大は期待しにくい。関税の影響により景況は予断を許さず、今後の展開も不透明である。鉄鋼業界を取り巻く環境も依然として厳しく、業界全体として改善の兆しはみられず停滞が続いている。景気回復の長期化や少子高齢化による人手不足が深刻化しており、今後は技術革新や人材投資を通じて生産性を高め、限られた人材の有効活用を進めることが重要である。生産性向上と賃上げ、消費喚起の好循環を実現する仕組みづくりが課題である。
	機械金属、機械器具の製造又は加工修理	売上高は8月以降回復傾向にあるものの、前年同月比では依然としてマイナスである。海外ではインドネシアを中心に鉱山事業の影響が続き、一定の受注は維持している。国内では建設案件はあるが、人手不足により着工が遅れ、受注が停滞している。年内の仕事量は一定程度確保されているが、2026年度の先行きは不透明である。
その他の製造業	漆器製造業（能登方面）	トランプ関税の影響で高級品の買い控えがみられ、先行きも不透明である。輪島塗の生産活動も徐々に戻ってきているが、新規受注は減少傾向で、原材料は高騰している。
	プラスチック製品製造業	全体として厳しい経営環境が続いている。電子部品や自動車関連は比較的堅調ではあるが、必ずしも好調とは言えず、米国経済の動向によって状況が左右される可能性が高い。そのため、先行きに不安を抱く企業が多い。人手不足や人件費の上昇、設備投資資金の確保難が大きな課題である。省力化・省人化の必要性は認識されているが、資金調達の困難さや補助金申請の負担が重く、中小零細企業は大企業との差を埋められず苦戦している。

<非製造業>

集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
卸売業	その他の卸売業	9月の売上高は前年同月比で130%と順調に伸びた。要因は、国内のインバウンド需要の増加および中国以外の国からの海外需要の高まりである。
	一般機械器具卸売業	住宅市場は依然として低調である一方、非住宅市場は官公需・民需とも堅調に推移している。企業間格差はあるものの、売上高・収益とも前年水準を維持している。
	各種商品卸売業	大きな変化はみられないが、全体としては緩やかな上向き傾向が続いている。
小売業	燃料小売業	ガソリン販売量は減少傾向にあり、単価は補助金縮小の影響で前年同月比上昇となった。売上は横ばいに推移しているが、人件費や物流コストの上昇により収益は減少が続いている。
	機械器具小売業	繁忙期の反動で一時的に落ち着いているが、時期的要因であり外的影響は限定的である。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	物価高が続き、衣料品の購買意欲の低下が続いている（対前年比94.6%）。引き続き、猛暑の影響で秋物の立ち上がりが鈍い。下旬から朝晩の気温も少し下がってきたため、需要が高まることを期待している。

	鮮魚小売業	底引き網漁は開始されたものの不漁が続いている。夏の暑さが彼岸まで長引いた影響で、市民の購買行動が抑制され、消費意欲も低調であった。観光客は欧米からの訪日客が多く、日本人観光客は少なかった。
	土産物小売業	北陸方面への法人旅行の減少が顕著であり、物価高騰も売上に悪影響を及ぼしている。
	百貨店・総合スーパー	売上は前年対比 104.98%、客数は同 108.56%であった。部門別では、ファッション 151.36%、服飾・生活雑貨 89.04%、食品 109.22%、飲食 93.83%、サービス 96.75%となった。新規出店の影響により全体では前年を上回ったが、個店ベースで見ると増加した店舗は少ない。
	茶類小売業	インバウンド需要は高止まりしており、地元特産の加賀棒茶の観光客向け販売は好調である。一方、一般家庭での茶消費は減少傾向にある。
商店街	近江町商店街	売上高は前年並みで推移しているが、物価高により収益は厳しい。インバウンド観光客は好調だが、国内旅行の減少により今後の観光シーズンに不安がある。
	白山市商店街	売上高・収益ともにおおむね平年並みで推移している。しかし、賃金上昇や仕入価格の高騰が経営の円滑な運営を圧迫しており、その分を売上の伸びで補うことができていない。
	片町商店街	インバウンド観光客の増加が顕著で、外国人客を主な顧客とする店舗では売上が堅調に推移している。一方で、その他の店舗では高温による外出控えや物価上昇に伴う消費意欲の低下、コスト高や販売価格上昇の影響を受け、全体的に厳しい月となった。
	竪町商店街	8月・9月は気候も比較的安定し、9月後半から秋らしくなったことでアパレル中心に売上が伸びている。来街者も増加傾向にあり、パーキング入庫台数も増えており、良い傾向が見られる。
サービス業	旅館、ホテル（金沢方面）	円安などによる物価高が続き、国内観光客は厳しい状況が続く。一方で、インバウンド客は回復しており、秋に向けて期待が高まる。
	旅館、ホテル（加賀方面）	諸物価の高止まりや売上高減少の中で収益状況はよくない。前年と比べ宿泊需要も減少している。
		諸物価の高止まりや売上減少により収益状況は悪化している。前年と比べ宿泊需要も減少した。温泉地全体の宿泊実績は前年同月比 119.6%と増加したが、これは旅館の営業再開や新規開業旅館の影響によるものである。それ以外の旅館では前年同月比 85%と減少が続いている。新規宿泊予約は低調に推移しており、インバウンド客の伸びも鈍化している。観光客による土産購入などの消費も低調との声が多い。
	旅館、ホテル（能登方面）	大型旅館の稼働率向上により、入込客数は前年同月比 400%、売上高は同 750%と大幅に増加した。しかし、雇用人員調整など経費削減を行うケースもあり、全体として依然厳しい。
	自動車整備業	車検需要は 37,017 台（対前年比 104.3%）と登録車（対前年比 103.9%）、軽自動車（対前年比 105.0%）と登録車、軽自動車ともに前年を上回り、上半期でも 102.6%と好調であった。一方、新車販売台数は 4,690 台（対前年比 96.3%）と登録車・軽自動車ともに前年を下回り、3ヶ月連続で前年割れとなった。上半期では 0.7%増加したものの勢いは乏しく、下期の各メーカーの新型車に期待したい。
	建設業	板金・金物工事業
	板金・金物工事業	職人不足による工事着工遅延の影響で物件数が減少し、売上・収益ともに減少した。業界としては多くの企業が忙しく動いており、全体的には明るい。

	一般土木建築 工事業	民間元請・下請受注高は対前年同月比で、土木工事部門の元請 107%、下請 80%、建築工事部門では元請 97%、下請 20%台である。官公庁受注高は、土木工事で元請 142%、下請 274%、建築工事では元請 234%、下請 13%であった。土木は民間・官公庁とも発注が堅調であり、建築も引き続き堅調に推移している。
	一般土木建築 工事業	公共事業の年間予算額は昨年度と同程度だが、9 月時点の受注高は減少傾向にある。人件費・原材料費の上昇や能登半島地震の影響もあり、収益は不安定な状況である。
運輸業	一般貨物自動車 運送業①	燃料費・売上・収益はいずれも前年同月と同水準である。参院選や自民党代表選などで政策の進展はみられないが、ガソリン税暫定税率の廃止に向けた動きが進むことを期待している。
	一般貨物自動車 運送業②	輸送量は対前年比で 0.1%増加、対前月比で 28.1%増加となった。前月の落ち込みは解消されたが、荷動きは相変わらず低調である。